

第6回 八丈島デジタル活用協議会

令和4年3月24日（木）17:00-19:00

次第

- 1 令和3年度協議会の公表資料の取扱いについて
- 2 デジタルスクールの成果報告について
- 3 令和4年度の事業案に対して委員からいただいたご意見への対応
- 4 次年度への引き継ぎ事項について（アンケート結果）
- 5 次年度の協議会運営について

1 令和3年度協議会の公表資料の取扱いについて

○令和3年度協議会の開催状況については、事務局資料及び議事をホームページに掲載

(これまで公表していた出席委員一覧・議事概要は削除)

○令和4年度協議会の公表方法等は、次年度改めて説明

2 デジタルスクールの成果報告について (別添資料により報告)

3 令和4年度の事業案に対して委員から いただいたご意見と東京都の対応

二次交通の充実①

意見内容	対応
1 事業内容（1）八丈島内二次交通の実証モデルの策定に向けた現状調査・分析①現状調査（ア）ニーズ調査	
<p>コロナ禍において、十分な観光客の母数を確保できるか、が少し課題に感じました（特に、ヒアリング30名以上）。ご記載の通り、宿泊施設や空港等にも協力を仰ぐことは非常に重要。航空・船舶会社にも機内等でのアンケート調査に協力いただけると良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒアリング対象を「島民20名、観光客20名程度」に修正（要相談） ○協力依頼先に、「船舶・航空会社」を追記
<p>観光客といっても、初めての来島の方が、複数回来島されたことがある方が、定期的に来島されている方が、によって、感じ方が異なると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート項目に「来島回数」を入れることで対応
<p>ビジネス客も一定程度いるかと存じますので、そうした方々の移動ニーズも把握することも良い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート項目に「来島目的別」を入れることで対応
<p>タクシー台数の減少など背景を踏まえつつ、高齢者、障害者、観光客、ビジネス客、などの利用者層別に、季節、曜日、時間帯や、飛行機/船の発着時間を絡めて詳細についてヒアリングができると良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート項目に可能な範囲で反映することとし、ヒアリングは可能な範囲での掘り下げる。 ※ヒアリングで様々な背景を持つ方を探し、質問で掘り下げるのは困難
<p>車いすタクシーのニーズについても把握したほうが良い（島内の車いすタクシー1台がR4年4月から無くなる。）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート項目に「島内交通サービスで不便・不足していると感じる点（バリアフリー対応などを選択肢に想定）」を入れることで対応

意見内容	対応
1 事業内容（2）八丈島内二次交通の実証モデルの策定・提案	
<p>年度末のタクシー事業者1社の廃業により、島内のタクシー台数の減少が確実となっている中、その補完の意味でも、早期に新たな移動手段を提供することが喫緊の課題。ニーズ調査や新たな移動手段を整理するだけでなく、候補となる新たな移動手段の受容性調査や有効性調査等を実施することが重要ではないか。具体的には、島民や観光客を対象に、提案予定内容の仮説検証を目的とした、「新たな移動手段の試行・検証機会等を通じた受容性・有効性調査」を設けても良いのでは。</p>	<p>○令和4年度事業案に、1か月程度の期間で提案内容の試行実施を行うことを盛り込めないか東京都で調整（位置づけとしては、令和5年度の本格実証に向けた調査の一環）</p>
1 事業内容（5）実証事業のスキーム構築	
<p>実証モデルに限らず、実証期間については住民の慣れ期間も考慮し、3か月以上の期間を設けて欲しい。また、二次交通は関係者も多く、慎重な議論が必要であり、拙速な進め方は避けるべきというのは大前提としつつ、令和4年度においても少し実践的な内容を組み入れるとか、少なくとも令和5年度に向けてスムーズに実証に移行できるようスピード感を意識して取り組めるようお願いします。</p>	<p>○実証期間についてのご意見は、次年度の検討時に参考とさせていただきます。 ○令和4年度中における実践的な内容に関しては既述</p>
<p>令和5年度実施を想定している実証事業の効果測定を行う際には、マクロ的な観点（人流データを収集・分析する方法等）での効果検証をしたほうが良い。</p>	<p>○実証事業のスキーム構築の際には、「ミクロ・マクロの視点での効果検証の方法」を提案するよう追記</p>
2 進捗状況等の報告	
<p>具体的な論点を膝詰めで議論する観点から、分科会の設置は有用。なお、分科会の議論には、事務局も基本にご参加いただくことで、議論の方向性をより深くご理解いただきながら、本会議との連携が実現できると考える。また、専門知見を持った企業や学識者等を分科会に都度招待し、大所高所の観点からの議論を進めると良い。</p>	<p>○次年度の協議会の進め方ということで参考とする。東京都としても事務局の分科会への参加は重要と考えている。</p>
<p>八丈町の関係管理者もメンバーに含めて欲しい。また、報告の場を毎月第●曜日など明確化して欲しい。</p>	<p>○八丈町役場の所管部署にも共有し、適宜議論への参加を依頼 ○報告の場については、今後、受託事業者が決まり次第調整</p>

意見内容	対応
1 事業内容（1）デリバリーサービス（飲食物・日用品等）の導入支援（オ）利用者の決済手段	
各種クレジットカードやQRコード決済以外にも、島内で普及している楽天Edyなどの「電子マネー」への対応も明記した方が良い	○既存のシステムを精査したところ、QRコード・電子マネーに対応しているシステムが少なく、これらの対応をマストとすると想定以上の経費が必要になる。また、基本的には非接触型のオンライン決済を原則とすることがコロナ等を踏まえると重要。そのため、QRコード・電子マネー対応は明記せず、「オンライン決済対応（最低限クレジットカード各種）」とすることで対応する。

4 次年度への引き継ぎ事項について (アンケート結果・各委員よりコメント)

(1) 協議会運営

組織自体のパーパス（存在意義）が最後まで不明瞭であったと感じた。改めてミッションを確認すべきかと思う。

良かった点は、島内の方だけではなく島外の企業が協議会に参加してくださっていたことです。参加企業により、実証事業の幅が大きく変わると思います。

反省点は、各委員による発言の少なさです。

【良かった点】

- ・日程調整やWEB会議媒体など運営がスムーズにいくよう配慮を頂いた

【改善点】

・時間の制約上仕方ない面はありますが、ある程度結論あり気で進んだ感もあり、議論している事が本当に島にとって優先順位の高い課題なのか不安になる事があった

・八丈町役場さんの立ち位置が見えづらかった（多角的な視点が重要なので、町役場さんから見たご意見を頂戴できるとありがたいです）

今年度IT人材育成事業が実施できたことは島内にとって有力となっていくと思われれます。また、二次交通の充実及びフード等デリバリーサービス事業につきましては来年度以降実施に向けて取り組んでいくと思われれますが、成功できるよう着実に推進できればと思います。

良かった点

- ・関係各所の意見調整の場を設置できた

反省点

- ・事前の十分な説明がないまま参加を打診され、概要のよく分からないまま走り出した点

(2) 令和4年度実施事業

(1)と同様に、ミッションステートメントを軸に議論すべき

デジタルデバインド対策のスマホ教室に、講師として関わらせて頂いております。ご年配の方の参加が多いので、教室で大人数に対してのレクチャーでは、全ての方に満足のいくご対応が出来ません。少人数制、または予約制等、改善の余地があるのではと思います。

二次交通は、もっと多くの知見を持った方の意見を聞き、進めていただきたいです。八丈島に似た地域の成功例等も勉強したいです。

(3) 令和3年度実施事業

短い準備期間のなか、ネットラーニングさん、TENNEIさんは素晴らしい実証事業を行ってくださったと思います。プロモーション動画とキービジュアルが大変素晴らしかったです。デジタルキャンプが終了したあとも、島内のあちらこちらに貼られているポスターを未だに見ます。

自走化については、スクールの期間を短くするとより多くの関係人口を増やせるのではと思います。

引き続き目的に対して定量的に結果を振り返る事が重要かと思う

- ・移住に繋がっているのか
- ・島の活性化に繋がっているのか

(4) その他

東京都総務局行政部、ファシリテーター、支庁、町役場、関係者の皆さま、本年度の実証事業を成功に導いていただき誠にありがとうございました。

次年度も、八丈島で素晴らしい実証事業が行えますよう願っております。

メンバー選定において、「DX/IT」と「八丈町の課題」が議論の柱になるかと思しますので、双方に長けている方がいらっしゃれば、より議論は活性化するかと思います。

5 次年度の協議会運営について（予定）

- 令和3年度八丈島デジタル活用協議会は、令和4年3月31日を持って解散。令和4年4月に改めて委員を公募予定。
- 公募に当たっては、令和3年度委員の皆様にもメールにて周知をさせていただきます。
- 次年度は分科会を3つ（IT人材育成、二次交通、デリバリー）設置し、分科会の活動を中心に意見交換を進めていく。
- 議論する事項がある程度定まっているので、次年度協議会のファシリテーターは、分科会も含めて事務局が担う予定。

皆様、今年度は誠にありがとうございました。